

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190501155		
法人名	医療法人 愛全会		
事業所名	グループホームハートハウスもいわした		
所在地	札幌市南区南32条西8丁目1番15号		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigvosyoCd=0190501155-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成26年4月に開設した2ユニットのグループホームです。重度化しても安心して住んで頂ける設備を整え看護師が常勤し、浴室はリフト浴、普通浴室があり入浴をゆったりと楽しむ事が出来ます。トイレには安定して座れる背もたれと腹圧がかけやすい手すりが付いており、日々活用しています。エレベーターも設置しており、ユニット間の行き来を気軽にしています。2階には広いテラスがあり、今年も、2ユニット合同の夏祭りを行いました。天気の良い日にはティータイムを過ごしていただいています。多目的室があり、2ユニットの合同行事やご家族を交えての交流会に使っています。「オレンジカフェ」を平成26年9月から毎月開催し、地域の皆様にも定着しています。グループホーム入居のきっかけにもなっています。藻岩下という自然と人の触れ合いを大切にする町で、地域の方々のご協力を頂きながら、安心して生活しています。町内会の夏祭りに参加したり、文化展に出品させて頂いたり、子ども会の七夕祭り・御神輿でホームへ来てくれたり楽しませて頂いています。地域に根ざしたグループホームを目指すと共に、今期は新しい理念を掲げ、更に入居者様には安心して自分らしい生活を送って頂けるよう努めています。職員は研修等に参加し、日々自己研鑽に励んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度化対応型のグループホームとして開設し、4年が経過している。バス停やコンビニ、公園も近くにある住宅街に立地している。地域の方々は開設時より友好的で、相互の行事では交流がある。特に、月1回の「オレンジカフェ」には多数の参加を得ており、入居に繋がったり、蕎麦打ちのボランティアとして来訪があり、利用者の食の楽しみになっている。また、次年度は町内会と合同で自然災害想定訓練を計画している。運営推進会議に参加の家族の方々からは、意見や提案、感謝の言葉が出ており、利用者と共に支える関係が構築されている。職員のスキルアップ向上に力を入れている法人のバックアップを受け、職員は、「ここを選んで良かった」と思えるようなケアに取り組み、理念の一節にある「あたたかくて心地良い「ホーム」を築き、その人らしく暮らせるよう尽くしてまいります。」を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情 や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が、地域の中で自分らしく暮らし続ける事を踏まえた理念を作っています。(今年度新たに理念を作成)管理者と職員は、その理念を共有し、日々意識してケアにあたっています。	職員の入れ替わりがあり、絆を強めたいと、職員それぞれの言葉を繋ぎ、利用者への寄り添いをキーワードとし、さらに職員の心意気と覚悟が綴られた事業所理念を策定している。新たな理念の下、職員は実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会、地域の行事(運動会、夏祭り、文化展、七夕等)、に参加しています。地域の方がボランティアで蕎麦打ちに來られ、近隣の理髪店、美容室も利用しており、小学校のPTA資源回収に協力しています。避難訓練、オレンジカフェに参加していただいています。	開設時より地域の方々とは友好的で、相互の行事に参加交流がある。月1回の「オレンジカフェ」には多数の住民の来訪があり、事業所の理解に繋がっている。利用者は、七夕祭りで訪れる子供達にお菓子を用意して出迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月開催している「オレンジカフェ」を通して認知症の理解の普及に努めています。運営推進会議で、認知症の薬と服薬方法についての勉強会を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事、事故、苦情、日常の様子等の報告を行い、ご家族からはケアに対する要望等忌憚らない意見を出して頂き、地域の方からもご意見を伺い、ケアにつなげています。外部評価への取り組みの説明を行っています。	会議は関係者の参加を得て定期的に開催され、運営や活動報告後に介護保険の改定や防災訓練、事故やヒヤリハット等について、各参加者から意見や助言を得ている。さらに、情報交換もあり、事業所の質向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方に運営推進会議に出席して頂き、行事報告、事故報告、苦情報告等を行い、協力関係を築いています。市担当者に毎月の利用状況の報告を行っています。管理者は、市や区の管理者会議に参加し情報や知識を共有しています。	各種報告や運営に関しての相談時は、法人役員が各担当窓口に出向いたり、通信機器でやり取りをしている。多目的室を開放しての「オレンジカフェ」開設や、区の管理者会議では、要請により系列職員が看取りに関する講演を行うなど、法人全体として協力関係の構築に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年4月から身体拘束等適正化に関する指針を作成し、身体拘束適正化委員会を立ち上げ、3か月に一回、勉強会などを行っています。法人内年間研修計画の中には身体拘束研修を必ず設定し、全職員が参加し、意識を持ってケアにあたっています。玄関は防犯目的で施錠しているが、イベント時は解放し、普段は気軽に出入りできる環境にしています。	身体拘束適正化については、これまでの取り組みをさらに強化し、適切なケアの実践に努めている。法人や外部・内部研修、会議や勉強会等で、拘束の具体例と弊害について職員に周知徹底を図っている。玄関の施錠やセンサー使用時は、家族の同意を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルがあり、法人内で高齢者虐待防止法に関する研修会を年に2回開き(不適切ケアも含む)、更に外部研修にも参加し、理解、浸透に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は法人内部研修に参加しています。現在、必要のある入居者様はならず、その都度検討していけるような体勢にしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時は十分な説明を行い同意書にサイン、捺印を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話等で管理者や、職員に気軽に話せる環境を整えています。年に一回、家族アンケートを行い意見や要望を伺いケアに活かしています。今年度新たに意見箱を設置し、お便りで周知しました。運営推進会議でも、ご家族様、地域の皆様の意見を頂き、ケアに反映させています。	意見や要望の把握は、利用者とは関わりの中から、家族とは面会時や電話、運営推進会議での来訪時や家族アンケートで受け止めている。ケアへの要望が殆どだが、迅速な改善に努めている。利用者の日常の様子は、ユニット便りでも伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、事業所合同の業務カンファレンス、ユニットカンファレンス、ケアカンファレンスを開き、意見や提案を聞く機会を作っています。業務中においても、気軽に意見等を話せる環境を整えています。人事考課時の自己評価でも本人の気持ちを聞く機会を作っています。	管理者は、業務上はもとより会議や年2回の人事考課時で、運営やケアへの提案を傾聴している。シフト調整や資格取得の要望など個別の要望も把握し、労働環境の整備にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価の機会があり、個々の努力や実績を把握し、やりがいや向上心につなげています。希望休も可能な限りとれ、働きやすい環境作りにも努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、研修の年間計画(新人、現任、管理者)を立て参加しています。新人職員は、新人研修マニュアルに沿って指導をしています。GS研修にも参加しています。法人外でも、職員一人ひとりの力量に合わせ、管理者研修、ケアマネ研修、高齢者虐待防止推進研修等に参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、南区管理者連絡会副代表を今年度務め、札幌市の研修に参加し、交流する機会を作っています。職員は、法人内の研修に参加し、他グループホーム、老健、特養、病院の職員と交流を持ちケアの質の向上に努めています。法人内では年に1回、学術研究発表会を行っており、他施設の研究の成果を学ぶことが出来ます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が事前訪問をし、ご本人、ご家族と面談をして生活状況を把握しています。不安なこと要望等をお聞きし安心して頂けるようにしています。また、ホームの雰囲気慣れにいただくため、入居前にお茶会や食事会に参加して頂けることをお話ししています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていること、ご本人にどのような生活を送ってほしいかなど、要望等を聞き、信頼関係を作れるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、ご本人、ご家族の思いや、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含め、ケアプランを作成しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は人生の先輩であることを踏まえ、ともに支えあう関係を作っています。買い物、料理、食材物品の検品、新聞をたたむ、お盆洗い、牛乳パックを切る作業など暮らしを共に行っています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いを大切に、共にご本人を支えていく関係づくりや、ご家族と同じ思いでケアを行うよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、ご兄弟の来訪時には、リビングや居室等でゆっくりお話をし頂ける環境づくりをしています。ご家族の協力を得て、馴染みの場所へ買い物、外食、お墓参り、美容室、ご自宅やご親戚の所に出掛けています。	法要に参列した利用者が安心できる場所として事業所に戻り、多目的室で家族と食事を摂っている。美容室へは家族と共に支援をしている。馴染みの方々との面会時は、希望する場所で寛げるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格や趣味などを職員が理解し、入居者様同士のコミュニケーションづくりに努めています。食事の席など、楽しんで食べて頂けるように工夫しています。また、関係性のバランスを保てるよう、職員が間に入ることもあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、ご本人、ご家族のお話を聞き、フォローしています。(お見舞い、面会、お悔やみ等)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアの中での言動により、何を望まれているかを感じ、訴えが少ない方でも行動や表情から考えられる思いをくみ取り把握に努めています。また、アセスメント時にもご本人の希望を伺っています。	自分の意思を表す利用者もいるが困難な場合は、意識的に声をかけたり動作や仕種から推し量っている。個別の記録や家族から情報収集し、要望に沿った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを用いて、ご家族様に生活歴等をお聞きし、なじみの暮らし方、生活環境の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を用いて、一人ひとりの生活のリズム、できる事等を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、医師、看護師、栄養士等の意見、アイデアを反映させたプランを作っています。また、必要に応じ、随時カンファレンスを開きモニタリングを行い現状に合ったプランにしています。	介護計画は、利用者や家族が望む生活支援になるように、医療関係者や管理栄養士の意見を踏まえ、計画の実践が確認できる介護記録を参考に、全職員で意見交換して作成している。急変時は、新たに計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアプランの実践結果、気づきを介護記録に記入しています。それをカンファレンスで職員全員が共有し、ケアプラン作りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に応じて通院等を柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出かけ、町内の方と挨拶やお話をしたり、庭の花を見せていただきました。今年度も秋の文化展に趣味活動の作品を出展し、見学に行く予定です。町内の春の運動会に応援に行き、町内の一員になって応援する喜びを感じていただきました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される医療機関で受診して頂いています。かかりつけ医には、必要に応じてご本人の体調や様子を報告し関係を築きながら適切な医療が受けられるようにしています。	数名の利用者は、馴染みの病院に通院している。家族対応だが、状況により管理者か看護師が同行している。協力医による2週間毎の訪問診療や週1回の訪問看護師に加え、看護職員による健康管理が図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の健康管理相談での看護師のアドバイスと合わせ、看護師1名が常駐しており、迅速なアドバイスを受けることができ、適切な受診につながっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療を受けられるようにご本人の情報を提供しています。早期に退院できるように、ご家族、医療連携室の方と、情報の交換に努めています。また、入院中職員がお見舞いに行き、関係づくりをしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、「重度化した場合における対応に係る指針」として説明を行い理解して頂いています。医療機関との連携体制を構築し、終末期に向けた支援体制が整備されています。	入居時に重度化や終末期の対応指針を説明し、同意書を交わしている。看取り支援時は、医療関係者や家族と情報を共有し、利用者や家族の要望を最優先としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修で救急救命(AED)講習を行いました。急変や事故発生時に備えて、応急手当や初期対応のマニュアルを作成しており、実践につながっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火、防災のマニュアルを作成しており、防火訓練は統括本部の防災担当課長(元消防署員)の指導の下、年2回(6月、10月)職員全員参加し行っています。6月は、まちづくりセンター所長、包括支援センター職員、ご家族が参加した防火訓練を行いました。10月19日に災害時の対応について事業所内研修として図上訓練を行いました。非常用備蓄品・避難時持ち出し用品を用意しています。11月に災害時の対応について職員、入居者様で避難経路と避難場所の確認(立ち退き避難訓練)を行う予定です。	運営推進会議前に夜間想定避難訓練を行い、参加者から意見をj得ている。今回の震災では、日頃の避難訓練や備蓄品の用意により、混乱は起きていない。次年度は、地域と自然災害想定合同訓練を計画している。	今後計画している災害時対応の実施と、寒冷期や夜間時の一時的屋内避難場所の確保、外出時や事業所内での様々な場面想定への対応を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護職員としての接遇研修「コミュニケーション・敬語」を受け、常に入居者さま本位のケアを心がけています。ご本人の気持ちを大切に考えた言葉かけをしています。	法人の接遇研修後に伝達研修を行い、情報を共有している。声のトーンやゆっくりと話しかけるなど、研修での学びを実践している。ミーティングでは、固有名詞を出さないなど、プライバシーにも十分配慮がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、起床時間、就寝時間、洋服選び、飲み物のご希望をお聞きしたり、行事参加も入居者様に合わせて声かけをしご本人に決めて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの気分や気持ち、体調に配慮しながら、ご本人のペースを大切に、ご希望にそって過ごして頂けるように努めています。(食事、就寝起床時間、散歩、入浴、買い物、テレビ番組の選択等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、お一人おひとりに合わせた身だしなみやおしゃれが出来るよう声かけをしています。出来ない方にはお手伝いをしています。外出時やイベント時には化粧や、ネイルをされる方がいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの好みや、病状に配慮した食事をして頂いています。また、食事の準備や後片付けを職員と一緒にすることでコミュニケーションがとれ、食事に対する楽しみにつながっています。週一度の自主メニューの日は、入居者様の希望を取り入れたり、誕生会や季節の行事の食事なども工夫しています。	食材は業者からだが、月4回の自主献立の日は、旬の物、要望の食材を用意し、食事作業を一緒に行っている。同席した昼食時に「この食事はいつも美味しい」との声が聞かれた。行事には、ケーキや出前寿司、回転寿司、ホテルのバイキングなど食の変化にも配慮がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた栄養バランスの良い食事を食べて頂いています。お一人おひとりの好みや病状に配慮できるよう管理栄養士と連携を取っています。1日を通じて水分確保できるように表に記入し毎日個人データ表に転記しています。習慣に応じて、パン食や粥を食べられる方もいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをして頂いています。お一人おひとりの力に応じて、声かけや、見守り、お手伝いをして口腔ケアをしています。定期的に歯科医の口腔ケアを受けている方もいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを考え、職員がさりげなく声かけお誘いして、気持ちよくトイレで排泄が出来るよう支援しています。尿意・便意の表現ができない方には、表情や行動から、さりげなくお誘いしています。	排泄時は自立排泄での見守り、声かけや誘導を行い、時にはポータブルトイレを使用するなど、一人ひとりに合わせた対応を行っている。スムーズな排泄に繋がる飲食料の工夫もあり、失敗の軽減や改善が見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの排便のリズムを理解したうえで、飲み物の工夫(野菜ジュース、牛乳、ヨーグルト、ヤクルト、オリゴ糖)や食べ物の工夫(繊維の多い野菜)、運動をして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人のご希望を聞き入浴して頂いています。入浴剤を選んで頂き、香りや色でリラックスして頂いています。又、身体状況に合わせてリフト浴等も行って頂います。洗身用スポンジを工夫してなるべくご自分で洗えるよう支援しています。	毎日入浴出来るが、週2~3回を目安に見守りや介助の支援を行っている。重度化対応の機械浴、可動式手摺りや浴槽もあり、全員が入浴剤の香りや色、音楽を楽しみながら、湯船で寛げる環境にある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活のペースで休息、就寝して頂いています。安心して眠れるような声かけや不安の訴えのある方のお話を傾聴したり、ホットミルクを飲んで頂いています。眠りやすい環境(居室の灯り、温度、湿度、音)を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの使用している薬について、処方情報から職員は理解をしています。服薬マニュアルに沿って服薬して頂き、症状に変化が無いか確認を行っています。又、ご自分で服薬しやすいように、薬杯カップ使用したり、皿、スプーン等を使用して内服して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりが好きなことや得意なことが活かせるようにアセスメントし、行って頂くことで気分転換にもつながっています。(散歩、体操、ことわざ、カラオケ、布巾縫い、パズル、調理、食器洗い、掃除、入浴、読書等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お一人おひとりのその日の希望に沿って近隣の小学校や公園に散歩に出掛けたり買い物に行っています。天気の良い日は、庭での昼食やテラスでのお茶会を行っています。又ご家族と協力し、自宅訪問や外泊、お墓参り、デパートでのお買い物等しています。地域の方々にはお祭りや文化展、運動会に誘っていただいたり、美容室では送迎のサービスをして頂いています。	日常的に周辺の散歩や買い物で外出している。冬場でも散歩を介護計画の目標にしている利用者もいるが、困難でも玄関前で外気に触れている。家族に声かけし、花見の後にホテルでの食事は恒例になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している方がほとんどですが、ご自分でお財布を持っている方もいます。職員と一緒に買い物に行ったときは支払いをお願いすることもあり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と協力して声の聴きたいときに気軽に掛けられるように支援しています。ご家族やご友人からの電話や、ホームから連絡がある時はご本人とも代わりお話しして頂いています。贈り物が届いた時など、お礼がてら子機を使用し居室等でゆっくりと話して頂く時もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、清潔保持を心がけ、リビングには花を飾り、季節を感じて頂けるよう工夫をしています。また、愛用のクッションやひざ掛けを使用していただいています。職員が業務で発する音、会話等、入居者様に不快感をあたえてしまう音が無いよう配慮しています。	事業所内はゆったりとした造りになっており、採光や空調、清掃、音量に配慮がある。広い廊下や階段は室内散歩に活用している。絵画や美術品、利用者の作品等が飾られ、窓辺には鉢物を置いている。ハロウィーンのカボチャの置物もあり、心和む空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の他に、ソファを配置し、他入居者様と話したり、ゆっくりとテレビが見れるようにしています。又、リビングから離れたところに椅子とテーブルを配置し、一人で過ごす場所もあり、利用して頂けるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら家具やベッドなど使い慣れたものや好みのもの、使い心地の良いもの、安全な物を持ってきて頂いています。写真や趣味のものを飾ったり、居心地よく過ごせるように工夫をしています。	各居室は趣の違いはあるが、壁に自作のタペストリーを飾り、持ち込まれた調度品がより引き立っているなど、利用者の思いに沿った居室作りが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの分かる力を見極め、文字の大きな手作りカレンダーを目に入りやすい場所に設置しています。必要に応じて居室、トイレに名前を付けたり、目印などの工夫をし、環境整備をして安全に生活できるようにしています。		